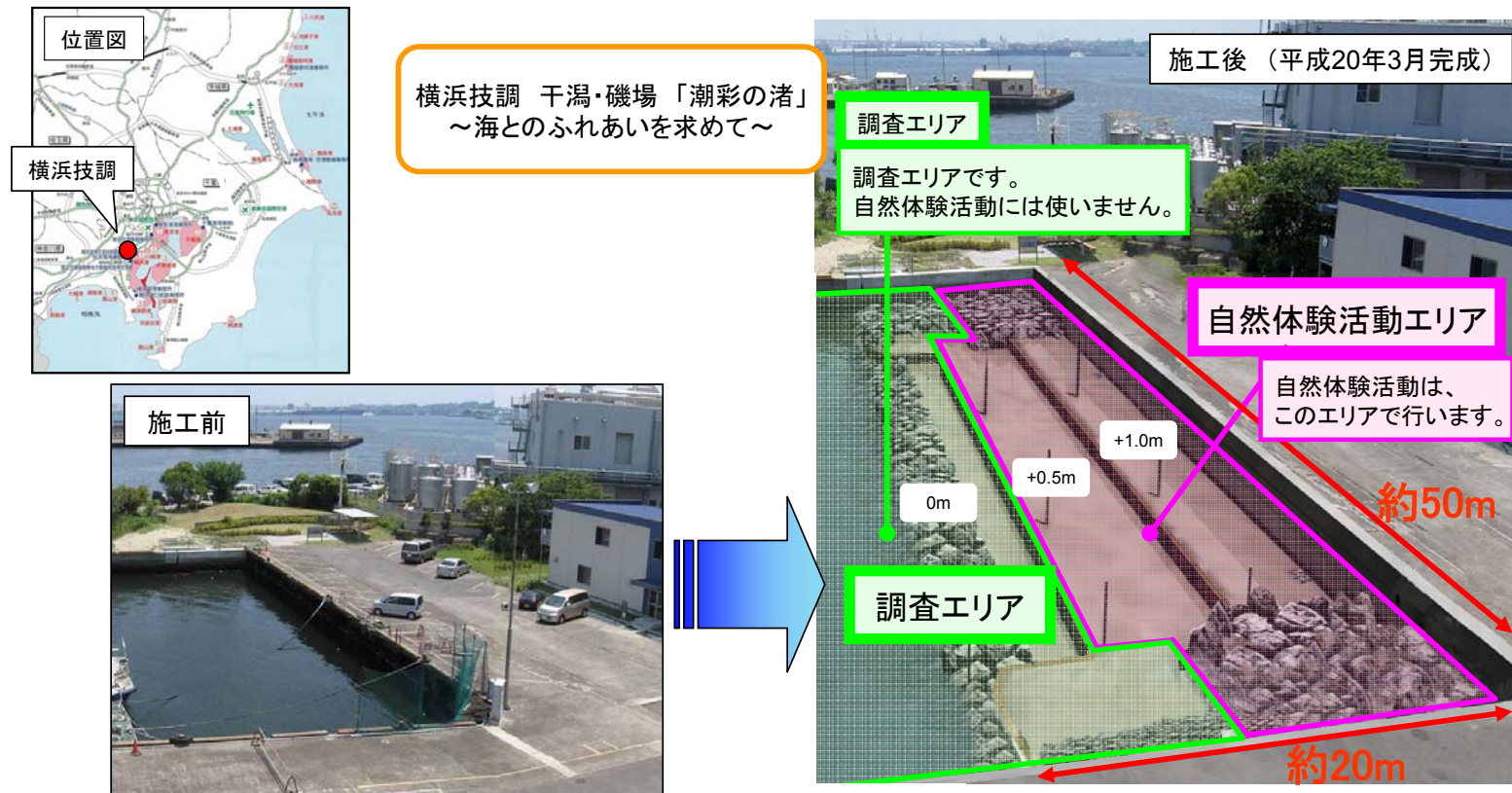


■干潟・藻場・浅場等の保全・再生・創出

国土交通省港湾局の取組の一つとして、関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所構内の艀装棧橋撤去(昭和36年度竣工)を契機に、その跡地と前面に1,000㎡規模の干潟・磯場を造成しました。

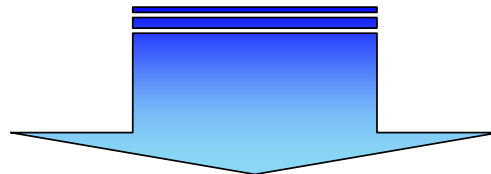
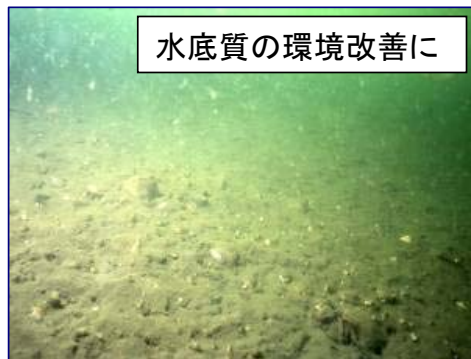
研究機関等と連携し、干潟・磯場生態系の成立の実証と環境改善効果の検証を行うとともに、NPOの方々とも連携・協働しながら一般の方々に海と親しむ場を提供することにより環境改善意識の醸成を図っています。



※数字は、大潮の時に最も潮が引いた水面を0 mとしたときのそれぞれの干潟の高さを表します。

■施設整備の経緯

- ・艀装栈橋の健全調査を行い老朽化の補修が必要と判明。
- ・今後、栈橋の利用する見込みが低いいため撤去すると共に、既存の護岸の老朽化対策の一環として、護岸の前面に人工干潟を造成し、環境実験施設としてその効果を検証。



■施設整備のコンセプト

- ①都市臨海部に存在する老朽化施設の補修・補強
- ②港湾機能等、産業活動を阻害しない構造の成立
- ③生物生息場および市民利用が可能となる場の創出

干潟・浅場の造成(潮彩の渚)

■施設の特徴

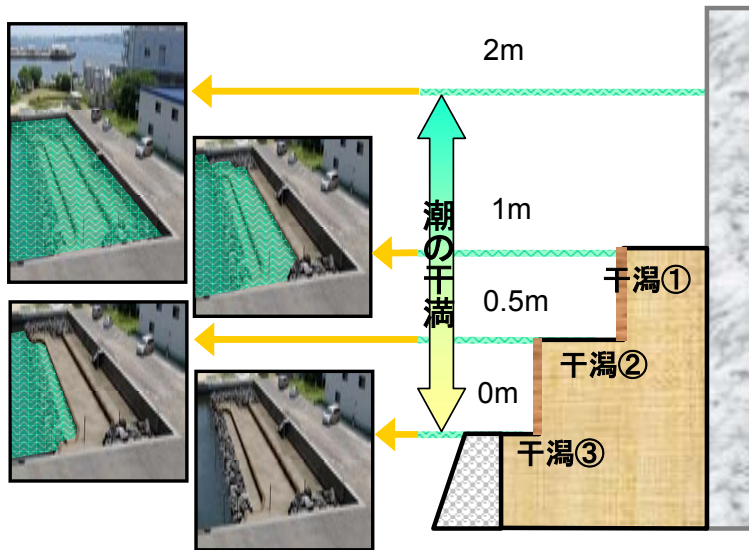
* 生物生息環境に着目した構造的なポイント

- ①海の満ち引きを利用し、時間毎に陸地化する範囲を変化させています。
- ②砂浜の部分と磯浜の部分を作り、多種多様な生物が着生できるようにしています。
- ③自然の干潟と同じ様な傾斜を維持するために柵式の構造としています。

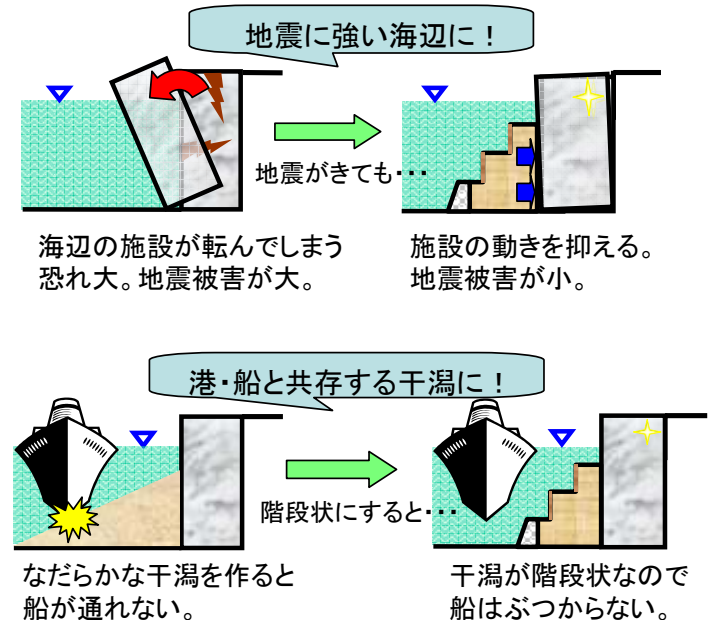
* 港湾機能に着目した構造的なポイント

- ①船舶の航行する水域を狭めないよう、柵式の構造を採用しています。

潮の満ち引きによって、干潟の顔を出す範囲が変化



船舶の航行する水域を狭めないよう、柵式の構造



干潟・浅場の造成(潮彩の渚)

- 国の取組の「現地展示場的な活用」として→ 地域住民との協同による生物調査会の実施
 - 地方自治体等への事業モデルの提案
- 新たな知見の獲得を目的として
 - 公募による市民活動団体等へのフィールド提供
 - 研究機関等との共同調査協定の締結による研究成果の共有・発信



干潟・浅場の造成(潮彩の渚)



アサリ



ゴカイ



カニ(マメコブシガニ)



ハゼ(マハゼ)



シオフキ



ウミウシ



カニ(コメツキガニ)



コヒキ



マテガイ

モニタリング状況(H20. 9 : 施設完成後から6ヶ月経過)

このほかおよそ
70種ほどの
生物を確認

現時点に於いて生物生息環
境の面では良好な環境を形
成しているものと思われる